



NO. 50 (通算224)

絵・文・題字
渋谷 一夫

連載20年の年末 師走は忙しい

十二月は何かと忙しい月だ。一年を総括整理して、来年に備える重要な月だ。普段威厳をもってゆったりと構えていた先生も、走り回らなければならぬほど忙しい月なのだ。だから「師走」。

一年の計は元旦にありという諺がある。その元旦の計を作るためにも、一年を総括する必要がある。だから忙しいのだ。

まず家屋の大掃除がある。今年一年のほこりや汚れを掃き清め、新年に備える。神棚も掃除して清め、新しいしめ縄を張

りしめ飾りを付けたりする。神棚に供えるお供え(鏡餅)や切り餅も作らなければならぬ。とにかく忙しい。

だが、半世紀前の南畑のお正月は、実は月遅れの二月正月だったのだ。だから本格的なお正月準備は一月下旬だ。もちろん、新年の神棚の飾り付けは十二月だ。お正月を2回やるような感じだった。

農業に合わせた行事

二月正月となると、農作業もそれに合わせるようになる。いや、むしろ行事を農作業に合わせた感じだ。従って、お正月準備は一月下旬となる。

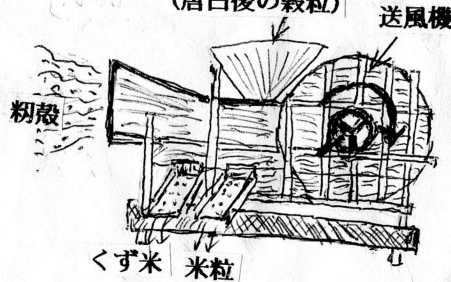
秋のイネ収穫の農作業は一応一段落したはずだが、実はまだ完全には終わっていないのだ。半世紀前の二毛作時代は、早稲は少なく、中手・晩稲が多かった。大麦、小麦、菜種、ジャガイモなどの収穫が終わってから、イネの作付けをしたから、どうしても後にずれる。十二月になってもまだ収穫作業が終わっていないこともあるのだ。

まだ籾すり作業も選別作業もあり、わら掛けもある。麦踏みも縄作りもある。やり残しの仕事は山ほどあるのだ。とにかく師走は忙しいのだ。

唐臼(がうす) = 籾すり(籾殻をはがす)



唐箕(とうみ) = 籾殻を分離(唐臼後の穀粒)



万石(ばんごく) (米粒の選別)



連載に、区切りを

「半世紀前の南畑」と題して10年、「昔があった今がある」と題して5年、

「ふるさとの今昔」と題して今月で5年、合計20年、貴重な紙面をご提供いただき連載させていただいた。当初は「新しい執筆者が見つかるまで」と簡単に引き受けてしまった。それが運の尽き、連載する羽目になってしまった。そしていつの間にか20年経ってしまった。恥ずかしい限りだが、同時に大変感謝している。拙文拙画にも関わらず、ずっとお読みくださった南畑の皆様、心からお礼を申し上げます。

この師走、私も新しいテーマを探して走り回りたいと思う。そして、またいつの日か機会があれば、紙面でお目にかかりたいと思う。

長い間、大変お世話になりました。